

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1071100372		
法人名	株式会社ティエムコーポレイション		
事業所名	グループホームけやき		
所在地	安中市宿1丁目9番17号		
自己評価作成日	26年6月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成26年7月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①医療連携を密にして、安心して毎日を過せるよう、それぞれの状況に配慮して健康管理につとめている。                  重度化や終末期においても、本人、家族、事業所間で確認し合って方針を決め、安心した最後が迎えられる支援に努めている。                  ②オムツはずしを目標に全員のトイレ排泄に努めている。                  ③生活空間を明るく、清潔にしている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、「入居者が重度化した場合における対応に関わる指針」及び「家族に対する看取り介護の説明書」を契約時に説明し、入居者が重度化した場合は、「重度化や終末期に伴う意思確認書」を毎月家族と取り交わし、事業所での看取りを希望するか・入院を希望するか家族の意思を確認している。看取りにあたってはターミナルケアの指針や看取りに向けたマニュアルを職員と家族が共有し、医師と家族の協力の下に、入居者が終の棲家として安心して日々過ごせるよう支援している。食事の前には口腔体操をしっかりと行い自力での食事摂取に努め、重度化している人でも自分で食べられるよう支援している。また、おむつ外しのため排泄チェック表に基づき昼・夜ともにトイレ誘導を行い、昼間は座位困難者も職員2人でトイレ介助し、入居者すべてが一日気持ち良く過ごせるよう支援している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日頃より尊厳を忘れず、その人らしく地域社会とつながりを保って、安全に安心して暮らしていけるように職員は意識して実践につなげるようにしている。	「尊敬、安全、安心、自立、自由」の基本理念のもとサブ理念の「地域社会の一員として、その人らしい暮らしが続けられるよう支援する」を入職の時説明し、必要に応じ全体会議やミーティングで、その人らしさを大切にするにはどうあったらよいかを話し合い、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの受け入れ、地域のイベントの参加など、相互の情報交換をして交流を図るようにしている。	地域の祭りへの招待、事業所主催のバーベキュー大会に地域の人達が出席、防災訓練に参加している。居間には、近所の人達が寄贈したレクリエーションで使用する手作りの遊具が置かれている。今年から、公民館が新築されたのを記念し開催される文化祭に参加する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設を開放的にして利用者との交流を多くしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	時用いている。	会議は、区長、老人会、民生委員、地域代表、家族代表等で構成され、「目標達成計画」や年間行事、災害時における地域の人達の役割、重度化や終末期にむけた共有と支援、チームで作る介護計画とモニタリングが話し合わせ、サービスの向上に活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議にも出席して下さり、報告、相談、指導をいただいている。 月一度、介護相談員が来所して入居者の相談に対応している。	市主催の「サービス調整連絡会議」が毎月開催され、制度改正等の情報交換の他、研修が行われている。また、介護相談員が毎月訪れる他、市役所職員から電話で伝達がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者の安全確保の為にやむをえない理由を理解して身体拘束を実施している。しかし、解除への検討は常に共通問題として話合っている。	利用者に重症者がいる時は、他の利用者の安全を考え道路に近い事から玄関を施錠、ベッド転落の危険のある利用者にはベッド柵の使用を、止む無く行っている。	問題意識を持ち身体拘束をしないケアについて検討を重ねているが、さらに話し合いを継続し、身体拘束のない実践を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の意識を強く共有し、言動に注意し、身体的観察もおこたらず、見過ごされないように注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受けたり、伝達して学ぶ機会をもつようにしている。入居者で実際に成年後見人がかかわっている人がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表者、管理者、介護支援専門員が中心となり理解、納得いただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議には、家族代表が出席して意見を発表していただく場となり日頃は来所の折りには必ず対話をさせていただいて、報告となり、要望など聞いている。	運営推進会議で家族代表の意見を聞くほか、毎月の利用料を持参した際や面会時に声かけを行い、意見や要望を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、全体会議などで意見、質問など聞き取り、可能なかぎりその場で検討し、反映するようにしている。	全体会議や毎日のミーティングで、休暇の取得方法や職員の増員要求について、可能な限り要望に沿うよう話し合い運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	厳しい勤務状態になる場合にはお願いして給料に反映できるよう配慮し、責任とやりがいをもって働ける様、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の力量を見極めると同時に必要な研修、資格などは積極的にすすめている。 シフト面、金銭面で、できるだけ支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員の同業者との交流を定期的に設定することは困難であるが、市の連絡会議の場などで情報交換などしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、介護支援専門員が傾聴して得た情報など共有して、職員全員が信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には、本人の様子をふまえて相談しながら、困っていること、要望など十分聞き出せるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報をもとに本人、家族との話しから見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊厳を守って出来るかぎり自分のできるよう配慮したケアで統一して寄り添う関係になるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族ぬきの本人への支援はなく、お互いに遠慮なく言える関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のかかわりある方との関係が続く様に情報を共有して家族と共に支援するように努めている。	友人が訪ねて来たり、家族と墓参りに行く、家族と月一度は馴染みの店に食事に行く等関係が続くよう支援している。敬老会の招待状が来るが、重度化に伴い出席出来ない人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃より利用者同士の関係の把握に努め、座席など配慮して座ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	途中解約、終了の方はしばらくいませんが、必要に応じて支援に努める。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ない会話から思いや希望を把握することに努めている。	日々の会話の中で、思いや希望を聞き叶えている。七夕の短冊には、入居者の願い事が書かれ、そうしたなか、家に帰りたいと言う人には散歩に出かけ気分転換を図っている。意思表示の困難な人には、何気ない会話や行動から思いや希望を把握することに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	調査、面談、情報をもとに生活歴、環境などの把握につとめ、職員で共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の気づきを元に情報伝達を忘れず、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員を中心に職員の毎月のモニタリング、ミーティングを参考に家族の同意を得た介護計画を作成するように努めている。	毎月行うモニタリングを基に、6ヶ月毎に介護計画を作成し、担当職員を中心に支援している。介護支援専門員は、日常的に利用者と一緒に過ごし、普段の暮らしのなかで、利用者や家族・職員から希望や意見を聞き計画に反映しているが、介護計画に則った日々の支援の記録がされていない。	介護計画を反映したケアの状況が、介護記録に記載されるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録はおこたらず記入するように努め、実践に活かすために共有検討して介護計画へ反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況をふまえ、長期入院や、経済的にも柔軟に支援できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民として内外の交流を深め安全に暮らせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に協力医の往診が可能であることを説明して、希望があれば事業所との関係を築きながら受診できるように支援している。	月2回往診する入院対応可能な医院と、月1回往診する入院対応可能な協力医は、何れの医院も重度化や終末期に対応している。整形外科と往診する歯科医院を契約時に説明し、家族の選択でかかりつけ医を決めている。また、訪問看護師が毎週入居者の状態を観察し、健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは24時間連絡、相談できるように配置して支援している。 病院からは週1度、訪問してくれるので情報提供に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師中心に病院との連携につとめ、協力していただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や看取りの指針を説明している。その都度、本人、家族の意向を確認しながら安心できるように支援している。	「家族に対する看取り介護の説明書」及び「入居者が重度化した場合における対応に関わる指針」を、契約時に説明している。入居者が重度化した場合は、「重度化や終末期に伴う意思確認書」を毎月家族と取り交わし、事業所での看取りを希望するか入院を希望するか、家族の意思を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生に備えて看護師指導を受ける機会をつくり、実践力になるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営会議において地域との協力支援のお願いをしたり、最低年2回自主避難訓練の他に職員が意識化するように努めている。	地域の人達に、避難した入居者の見守りを依頼している。消防署の指導を受け、防災訓練を実施した後に、地域の人達と共に講評を受け、意見交換を行っている。火災予防として、使用しないコンセントの掃除を行う、夜間はコンセントを抜く、ガスの元栓を閉めることを全職員でチェックしている。3日分の食糧と飲料水を、備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念でもある尊厳を守り、プライバシーに配慮したケアをめざしているが、言葉使いが徹底できていない。	入居者の誇りを傷つけないよう命令・指示語を使わず、語尾を強めない事を、ミーティングで話し合っている。トイレ誘導や入浴介助の際は、先輩として尊敬する気持ちを大切にしている。「若い人に苦勞を掛けるね」のねぎらいの言葉を励みに、日々の支援にあたっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一方的にならない声かけに注意して、自己表現、決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事以外の日々の生活はゆっくりペースで、一人一人のペースを把握して、強制することなく支援するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔を保ち、その人らしく自由におしゃれできるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時々、好物をたずねたり、期待をもたせたりしながら、職員と一緒に食べている。下膳できる方、おしぼり配りなど出来る方にはしてもらっている。	食材業者の献立に基づき調理しているが、会話のなかでの食べたい希望に添い、職員の手作りでうなぎやいなり寿司・ちらし寿司・ラーメンなどを提供している。入居者は、枝豆取りやタケノコの皮むき・ホットケーキ作りや白菜の漬物を手伝う時には漬方の指導している。職員もテーブルを囲み同じ食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、毎食記録をとり、チェックして対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、誘導介助して口腔ケアをしている。夜は入歯消毒に預かっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握して、全員トイレ誘導を実施している。	排泄チェック表に基づき、昼・夜ともトイレ誘導し、昼間は座位困難者も職員2人でトイレ介助を行い、一日が気持ち良く過ごせるよう自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックを確認し、原因を考え、看護師報告、指示で対応するようにしている。かかりつけ医にも相談指示をあおいでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人のペースとタイミングを見計らい、午前入浴だったり午後入浴だったりしている。	夏は週3日・冬は週2日の入浴とし、入浴を拒否する人には時間をずらしたり、人を変えて声かけしたり、日を変えたりして支援している。季節を感じられるようゆず湯や菖蒲湯を行い、歌を歌いながら入浴を楽しんでいる人もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて医師と相談しながら眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は個々に服用している薬を把握して理解を深める努力をし、変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の性格や生活歴をふまえ、役割やお楽しみができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族の協力が得られる外出は希望通り支援している。ホームでは散歩、日光浴、ドライブなどで支援している。	近くの花屋に見物に行ったり、庭先でお茶を楽しみながら日光浴を行ったりしている。鼻高の花の丘や観音山にドライブし、今年初めて「ぐんまフラワーパーク」へバス旅行をするなど、外出を楽しんでいる。また、家族と毎月1回外出し外食している人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理出来る方は小使い程度の金額を財布に入れて持っている。 最近では無駄使いしないようにと、買物の希望がありません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りができなくなったが、希望時には電話したり、職員の判断でとり次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく清潔に季節感をとり入れながら自由にくつろげるように支援している。	入居者の思いや希望が書かれた七夕が飾られ、テレビを見やすく・会話がしやすいよう数種類のソファが配置されている。高い天井の天窗から柔らかな日差しが注ぎ、建物内は清潔に保たれ、入居者が居心地良く過ごせるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	イスは方々に配置して、食事席以外は自由に過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のベット、カーテン以外は自由に持ち込んでいただいている。	整理ケースや寝具・家族の写真や絵が飾られ、縫いぐるみや家族が宿泊できるソファが持ち込まれるなど、居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できるだけ自立を妨げないように車椅子対応できる広さを確保して、安全に過ごせる様子を付けている。		















